

始まったMT夢クラブ21のサポーターは・・・

サポーター（地域指導者）として、西中学校女子バスケットボール部の指導しているかたわら、地元神淵中学校でバレーボール部の顧問をしている、榎間誠教諭にMT夢クラブ21について話してもらいました。

MT
夢クラブ
21

サポーター

理想は、地域の人と教師が指導の方向性を確認しつつ、進めていく部活動

神淵中学校教諭

榎間 誠さん



▲榎間誠さん。神淵中学校の女子バレーボール部を指導するかたわら、夢クラブのサポーターとして限られた時間の中で、西中学校の女子バスケットボール部の指導もしています。

部活動があり、自分自身は神淵中学校のバレーボール部の指導を優先しています。

そのため、MT夢クラブ21のサポーターとして、西中学校女子バスケット部を指導できる日数は、かなり限られています。

本場にスポーツが好きで地域に根付いた人がいるならば、部の指導者として教師と地域の人が指導の方向性を確認しつつ、進めていくことが理想だと思っています。（実際、西中学校の女子バスケットボール部も地元の小川富雄さんが長年、コーチとして関わっています。）

一方、顧問をしている神淵中学校のバレーボール部でも、地域の人に指導を助けていただいています。また週一回、「親子バレーボール」という時間が生まれ、その活動は現在も続いています。

教員の場合、何年かすればその地域から転任してしまいます。教員だけが必死になってその部を見ていく時代は過去になりつつあるような気がします。

このように、学校の部活動は大きな移行期を迎えているのではないかと思っています。しかし、実際には地域の人が部活動に関わっているのはまだ少数で、

その多くは教員が行っている状況です。学校教育の中の部活動は、その顧問が生徒を指導していくことで、生徒とのパイプを太くしていきます。その点で非常に重要な場だと思っております。また、授業でなかなか活躍できない子ども、部活動ではいきいきできて救われる場でもあるのです。今後、こういったことは大切にしていかなければならないと思います。

そのためには教員と地域の指導者が、役割分担をして生徒をプラスの方向へと導いていくことが重要だと思っています。

こうした中で実際に部活動を行いなから、MT夢クラブ21として、別の種目に取り組んでいる子どももいます。

若い時代にいろんな種目に取り組むことは、生涯体育の観点から大切なことだと思えます。

学校の部活動以外に複数の種目に取り組む生徒が増えて、休日や夜の時間をうまく使いながらMT夢クラブ21のようなスポーツクラブに気楽に参加していけるのではないかと思っています。

現在、七宗町立神淵中学校の女子バレーボール部の顧問をしています。

神淵中は、存じのとおりに、小規模の学校ですので、部活動数も少なく、バスケットボール部もありません。自分が30年ぐらい関わっている、バスケットボールの競技者、審判員としての経験を生かせる場があるなと思います、引き受けることにしました。可茂地区で同じ種目だと引き受けることができませんでしたが、違う種目だったので、引き受けることができましたと思います。

ただ、土・日曜日の休日のいずれかは